

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝3：4：3 【評価母集団】2学年全員（理系、文系、国際教養コース）
----------------	--

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2 単位	学年	2 年	履修対象	文系 LAC選択者
教科書・副読本 『文学国語』（数研出版）									
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 文学的な文章を読み、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 思考力・判断力・表現力 文学的な文章について理解を深め、考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高める。 主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					知識・技能 定期考査 思考力・判断力・表現力 定期考査 ペアワーク・グループワーク・発表・報告 主体的に学習に取り組む態度 授業態度・提出物・小テスト・課題考査 課題・発表などへの取り組み状況				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	『鍋セット』 角田光代 『山月記』 中島敦 『人虎伝』李景亮 短歌 俳句		- 作品の内容を理解し、登場人物の心情を読み取る。 - 本文全体から、虎になる前の主人公の人柄を整理し、文章でまとめる。 - 主人公は何故自分が虎になったと考えているのかをまとめる。 - 作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜかを考察する。 『山月記』と『人虎伝』の内容の違いを読み取る。 - 句切れやリズムに注意しながら鑑賞する。 - それぞれの短歌、俳句で工夫された表現を確認し、感動の中心を考察する。 - 鑑賞文の作成、短歌俳句の作品創作をする。						
	『三月の風』 阿部昭 『文学のふるさと』 坂口安吾 『こころ』 夏目漱石 『現代日本の開化』 夏目漱石		- 父親の息子に対する心情と二人の関係性について読み取る。 - 作品内容をふまえて、登場人物の考え方や行動に対する感想を話し合う。 - 本文に挙げられた物語について筆者の注目する点を読み取る。 - 筆者の主張を読み取り、まとめる。 - 主人公の心情を整理し理解する。 - 作品の主題を考察し、これまでの学習を生かして話し合う。 『こころ』と講演録からうかがえる明治の時代性を考察する。						
3 学期	『永訣の朝』 宮沢賢治 『水仙』 太宰治		- 詩歌を読み、言葉に想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。 - 作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。 - 文章の構成や展開、表現の仕方に注目し、解釈の多様性について考察する。 - 作品展開を踏まえて、主人公の行動の理由をまとめる。						
履修条件・注意事項等			【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝3：5：2 【評価母集団】 2 学年選択者（文系、国際教養コース）						

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】2学年全員
----------------	---

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 4 ： 4 ： 2 【評価母集団】 2 学年全員
----------------	--

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	3単位	学年	2年	履修対象	文系・LAC 選択者
教科書・副読本		詳説世界史(山川出版)、史料集、一問一答、教科書準拠ノート							
育成する資質・能力								評価の方法	
知識・技能 世界の歴史に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料を活用する技能を身に付けるようにする。 思考力・判断力・表現力 世界の歴史について、現代世界とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、課題の解決を目指す力や、考察や構想、議論する力を養う。 主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。								知識・技能 定期考査・課題考査・提出物・小テスト 思考力・判断力・表現力 定期考査・課題考査・提出物・グループワーク 主体的に学習に取り組む態度 授業への取り組み・提出物・グループワーク・発表・報告	
期間	単元			主な学習活動（指導内容）と評価のポイント					
1 学期	世界史へのまなざし			- 砂糖とコーヒーなど、身近なものを事例として、自らと世界史のつながりについて考察、発表する。 - 文明誕生の基礎について理解したあと、古代オリエント文明や南アジア文明、中国の古代文明、南北アメリカ文明について比較することで、理解を深める。 - 中央ユーラシアや、中国をはじめとする東アジア文化圏についてモノや人の伝播などを通してつながりを考察する。 - 南アジア世界や東南アジア世界について仏教やヒンドゥー教との関係を中心として考察し、現代とのつながりについてまとめる。 - ギリシャ・ローマ世界について、キリスト教などを通して、相違点・類似点について理解を深める。					
	第1章	文明の成立と古代文明の特質							
	第2章	中央ユーラシアと東アジア世界							
	第3章	南アジア世界と東南アジア世界の展開							
	第4章	西アジアと地中海周辺の国家形成							
2 学期	第5章	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成		- イスラーム教の成立の経緯を理解し、またヨーロッパ世界の形成について、その特徴を多面的・多角的に考察する。 - イスラーム化が中央アジア・南アジア、東南アジア、アフリカにもたらした変化について考察し、まとめる。 - 西ヨーロッパの社会や文化について、東ヨーロッパ世界の展開と比較し、考察する。 10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を、モンゴル帝国の成立から解体までも視野に入れ、多面的・多角的に考察し表現する。 - モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解し、16世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に考察し表現する。 - オスマン帝国とサファヴィー朝、ムガル帝国の興隆について類似点・相違点を念頭に多面的・多角的に考察し、また清代の中国と隣接諸地域について理解する。					
	第6章	イスラーム教の伝播と西アジアの動向							
	第7章	ヨーロッパ世界の変容と展開							
	第8章	東アジア世界の展開とモンゴル帝国							
	第9章	大交易・大交流の時代							
	第10章	アジアの諸帝国の繁栄							

3 学 期	第11章 近世ヨーロッパ世界の 動向 第12章 産業革命と環大西洋革命	・近世ヨーロッパ世界の動向について、宗教改革が多方面に与えた影響を考察し、表現する。 ・産業革命やアメリカ独立戦争やフランス革命が与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。
-------------	---	---

履修条件・ 注意事項等	文系、L A C は日本史探究との選択。3 学年も世界史探究を継続履修となるのでよく考えて選択すること。 【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】2 学年選択者（文系、国際教養コース）
----------------	---

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3単位	学年	2年	履修対象	文系・LAC 選択者
教科書・副読本		『詳説日本史』（山川出版社、日探705）、図説、史料集、ワークノート							
育成する資質・能力								評価の方法	
知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。								知識・技能 定期考査・小テスト・提出物など	
思考力・判断力・表現力 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。								思考力・判断力・表現力 定期考査・小テスト・提出物・討議・発表など	
主体的に学習に取り組む態度 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。								主体的に学習に取り組む態度 授業にとりくむ姿勢、提出物・討議・発表など	
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	第1章 日本文化のあけぼの		・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。						
	第2章 古墳とヤマト政権		・中国の歴史書の記事をもとに、日本列島の倭の小国やヤマト政権と中国・朝鮮半島の諸国との交流について、多面的・多角的に考察する。 ・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。						
	第3章 律令国家の形成		・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ・東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究する。						
2 学期	第4章 貴族政治の展開		・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ・律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。						
	第5章 院政と武士の躍進		・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。						
	第6章 武家政権の成立		・鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ・モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。						

3 学 期	第7章 武家社会の成長	・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ・庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。
	第8章 近世の幕開け	・織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。
	第9章 幕藩体制の成立と展開	・17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ・幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ・儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。

履修条件・ 注意事項等	文系、L A C は世界史探究との選択。3 学年も日本史探究を継続履修となるのでよく考えて選択すること。 【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 4：4：2 【評価母集団】2 学年選択者（文系、国際教養コース）
----------------	--

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4単位	学年	2年	履修対象	文系・理系 LAC選択者
教科書・副読本		数学Ⅱ Advanced（東京書籍）、PRIME 数学Ⅱ（東京書籍）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟をさせる。 思考力・判断力・表現力 数学を通じて、事象を数学的に考察し、数学的表現力を培う。 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					知識・技能 定期考査および小テスト 思考力・判断力・表現力 授業ノート、提出課題 主体的に学習に取り組む態度 授業への取り組み、発表等を総合的に判断				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	1章 方程式・式と証明 1節 整式の乗法・除法と分数式 2節 2次方程式 3節 高次方程式 4節 式と証明		・3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ・多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる。						
	2章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円 3節 軌跡と領域		・事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。						
2 学期	3章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理		・三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。						
	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数		・指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。						
3 学期	5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数 2節 導関数の応用 3節 積分		・関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ・微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。						
	履修条件・注意事項等		【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団 1】 2 学年（理系全員） 【評価母集団 2】 2 学年（文系全員） 【評価母集団 3】 2 学年選択者（国際教養コース）						

教科	数学	科目	数学B	単位数	2 単位	学年	2 年	履修対象	理系
教科書・副読本		数学B Advanced（東京書籍）、PRIME 数学B（東京書籍） チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B（数研出版）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟をさせる。 思考力・判断力・表現力 数学を通じて、事象を数学的に考察し、数学的表現力を培う。 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					知識・技能 定期考査および小テスト 思考力・判断力・表現力 授業ノート、提出課題 主体的に学習に取り組む態度 授業への取り組み、発表等を総合的に判断				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	1 章 数列 1 節 数列 2 節 漸化式と数学的帰納法		- 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 - いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。						
	2 章 統計的な推測 1 節 標本調査 2 節 確率分布 3 節 正規分布		- 漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 - 数学的帰納法について理解している。 - 標本調査の考え方について理解している。 - 確率変数と確率分布について理解している。 - 二項分布と正規分布の性質や特徴について理解している。						
3 学期	4 節 統計的な推測		- 目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測することができる。 - 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。						
履修条件・注意事項等		【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 4 ： 4 ： 2 【評価母集団】 2 学年理系							

教科	数学	科目	数学B	単位数	1 単位	学年	2 年	履修対象	文系・LAC 選択者
教科書・副読本		数学B Advanced（東京書籍）、PRIME 数学B（東京書籍）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟をさせる。 思考力・判断力・表現力 数学を通じて、事象を数学的に考察し、数学的表現力を培う。 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					知識・技能 定期考査および小テスト 思考力・判断力・表現力 授業ノート、提出課題 主体的に学習に取り組む態度 授業への取り組み、発表等を総合的に判断				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	1章 数列 1節 数列		・等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 ・いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。						
2 学期	2節 漸化式と数学的帰納法		・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。						
3 学期	2節 漸化式と数学的帰納法		・数学的帰納法について理解している。						

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団1】 2学年選択者（文系） 【評価母集団2】 2学年選択者（国際教養コース）
----------------	---

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 4 ： 4 ： 2 【評価母集団 1】 2 学年理系 【評価母集団 2】 2 学年選択者（文系、国際教養コース）
----------------	---

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2単位	学年	2年	履修対象	LAC選択者
教科書・副読本			『高等学校 化学基礎』（数研出版）						
育成する資質・能力						評価の方法			
知識・技能 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め化学の基本的な原理・法則を理解する。 思考力・判断力・表現力 図やグラフを用いて問題解決をしたり、実験を通して得られた結果を整理分析する。 主体的に学習に取り組む態度 目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てる。						知識・技能 定期考査・小テスト・提出物等 思考力・判断力・表現力 定期考査・小テスト・提出物等 主体的に学習に取り組む態度 授業にとりくむ姿勢、演習問題に前向きに取り組む姿勢等			
期間	単元	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント							
1 学期	第1編 物質の構成 と化学結合	① 物質の構成 日常生活の中にある物質の成り立ちや現象を理解し、自身の考えを適切に表現できること。 ② 物質の構成粒子 身の回りの物質が原子やイオンからできており、その構造を理解し、物質に関わる現象などを表現できること。 ③ 粒子の結合 物質によって粒子の種類や結合の仕方が異なることを理解し、物質の性質について表現できること。							
	第1編 物質の構成 と化学結合 第2編 物質の変化	③ 粒子の結合 物質によって粒子の種類や結合の仕方が異なることを理解し、物質の性質について表現できること。 ① 物質と化学反応式 原子やイオンは非常に小さく、モルというまとめた単位で表すことを理解し、モルを元に物質の量や化学変化の量的な関係を、取り扱うことができること。 ② 酸と塩基の反応 酸・塩基の性質を理解するとともに、中和反応を考えたり、量的な関係を考察できること。							
3 学期	第2編 物質の変 化	② 酸と塩基の反応 ③ 酸化還元反応 酸化および還元の広い意味での定義を理解し、酸化還元反応およびその量的考えを表現できること。							
履修条件・注意事項等		理工系の大学・学部や工業系専門学校への進学を希望する場合、入学試験で「化学基礎・化学」を受験する必要があります。進学希望先の受験科目を調べておきましょう。 【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】2学年選択者（国際教養コース）							

教科	理 科	科 目	生 物 基 礎	単 位 数	2 単 位	学 年	2 年	履 修 対 象	文 系 ・ LAC 理 系 物 理 選 択 者
教科書・副読本		高等学校 生物基礎（啓林館） ESSENCE NOTE 生物基礎（啓林館）、ニューステージ生物図表（浜島書店）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理・法則を理解する。					知識・技能 定期考査・小テスト・提出物等				
思考力・判断力・表現力 図やグラフを用いて問題解決をしたり、実験を通して得られた結果を整理分析する。					思考力・判断力・表現力 定期考査・小テスト・提出物等				
主体的に学習に取り組む態度 授業・観察・実験等を通して生物や生命現象を論理的に探究する能力と態度を育てる。					主体的に学習に取り組む態度 探求課題に取り組む姿勢・提出物等				
期 間	単 元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	第 1 章 生物の特徴 <u>第 1 節 生物の共通性と多様性</u>		生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。 探究課題① 生物には共通性はあるのだろうか 探究課題② 原核生物と真核生物の特徴から起源について考えよう 生物の活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。 探究課題③ エネルギーはどのようにして生命活動に利用されているのか						
	<u>第 2 節 生物とエネルギー</u>								
	第 2 章 遺伝子とその働き <u>第 1 節 遺伝情報とDNA</u>		遺伝情報をになう物質としてのDNAの特徴について理解する。 DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。 探究課題④ DNA はどのような構造をしているのだろうか 探究課題⑤ DNA 複製の様子						
	<u>第 2 節 遺伝情報とタンパク質の合成</u>		DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。						
2 学期	第 3 章 神経系と内分泌系による調節 <u>第 1 節 情報の伝達</u> <u>第 2 節 体内環境の維持のしくみ</u>		体内環境の恒常性が保たれているしくみを理解する。 体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する 探究課題⑥ 心拍数が上がるということはどういうことか 探究課題⑦ 血糖濃度の調節にはどのような経路が働いているのか						
	第 4 章 免疫 <u>第 1 節 免疫の働き</u>		免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。 探究課題⑧ 予防接種をすると、なぜ病気を防ぐことができるのか						
3 学期	第 5 章 植生と遷移 <u>第 1 節 植生と遷移</u>		陸上には様々な植生が見られ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解する。 探究課題⑨ 植生の変化は光環境や土壌をどのように変化させたか 探究課題⑩ 気候が異なると極相はどのように変わるのだろうか 気候に適応した様々なバイオームが成立していることとその特徴を学ぶ 生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。						
	第 6 章 生態系とその保全 <u>第 1 節 生態系と生物の多様性</u>		探究課題⑪ 生態系の上位の生物がいなくなるとどうなるのだろうか 探究課題⑫ 人間の活動は生態系にどのような影響を与えるのか						
	<u>第 2 節 生態系のバランスと保全</u>								
履修条件・注意事項等			【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団1】 2 学年文系 【評価母集団2】 2 学年理系（物理選択者） 【評価母集団3】 2 学年国際教養コース						

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	2 単位	学年	2 年	履修対象	理系生物 選択者
教科書・副読本		高等学校 生物基礎（啓林館）セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）、 ニューステージ生物図表（浜島書店）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理・法則を理解する。					知識・技能 定期考査・小テスト・提出物等				
思考力・判断力・表現力 図やグラフを用いて問題解決をしたり、実験を通して得られた結果を整理分析する。					思考力・判断力・表現力 定期考査・小テスト・提出物等				
主体的に学習に取り組む態度 観察、実験を通して生物や生命現象を論理的に探究する能力と態度を育てる。					主体的に学習に取り組む態度 探求課題に取り組む姿勢・提出物等				
期 間	単 元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学 期	第 1 章 生物の特徴 第 1 節 生物の共通性と多様性	生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。 探究課題① 生物には共通性はあるのだろうか 探究課題② 原核生物と真核生物の特徴から、起源について考えよう							
	第 2 節 生物とエネルギー	生物の活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。 探究課題③ エネルギーはどのようにして生命活動に利用されているのか							
	第 2 章 遺伝子とその働き 第 1 節 遺伝情報と DNA	遺伝情報をになう物質としての DNA の特徴について理解する。 DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。							
	第 2 節 遺伝情報とタンパク質の合成	探究課題④ DNA はどのような構造をしているのだろうか 探究課題⑤ DNA 複製の様子 DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。							
	第 3 章 神経系と内分泌系による調節 第 1 節 情報の伝達 第 2 節 体内環境の維持のしくみ	体内環境の恒常性が保たれているしくみを理解する 体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。 探究課題⑥ 心拍数が上がるということはどういうことか 探究課題⑦ 血糖濃度の調節にはどのような経路が働いているのか							
2 学 期	第 4 章 免疫 第 1 節 免疫の働き	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。 探究課題⑧ 予防接種をすると、なぜ病気を防ぐことができるのか 陸上には様々な植生が見られ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解する。							
	第 5 章 植生と遷移 第 1 節 植生と遷移	探究課題⑨ 植生の変化は光環境や土壌をどのように変化させたか 探究課題⑩ 気候が異なると極相はどのように変わるのだろうか							
	第 6 章 生態系とその保全 第 1 節 生態系と生物の多様性	気候に適応した様々なバイオームが成立していることとその特徴を学ぶ。 生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を認識する。							
	第 2 節 生態系のバランスと保全	探究課題⑪ 生態系の上位の生物がいなくなるとどうなるだろうか 探究課題⑫ 人間の活動は生態系にどのような影響を与えるのか							

履修条件・ 注意事項等	1 学期～2 学期中間考査は「生物」の2 単位を使い、4 単位として「生物基礎」の授業を進める。2 学期中間考査以降は「生物基礎」の授業は「生物」を行う。 【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】2 学年理系（生物選択者）
----------------	--

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 4 : 4 : 2 【評価母集団】 2 学年理系（物理選択者） 理工系の大学・学部や工業系専門学校への進学を希望する場合、入学試験で「物理基礎・物理」を受験する必要があります。進学希望先の受験科目を調べておきましょう。
----------------	--

教科	理科	科目	生物	単位数	2 単位	学年	2 年	履修対象	理系生物 選択者
教科書・副読本		高等学校 生物（啓林館）セミナー生物基礎＋生物（第一学習社） ニューステージ生物図表（浜島書店）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 生物の多様性を踏まえつつ、生物に共通する概念や原理や法則を理解する。 思考力・判断力・表現力 図やグラフを用いて問題解決をしたり、実験を通して得られた結果を整理分析する。 主体的に学習に取り組む態度 観察、実験、演習を通して生物や生命現象を論理的に探究する能力と態度を育てる。					知識・技能 定期考査・小テスト・提出物等 思考力・判断力・表現力 定期考査・小テスト・提出物等 主体的に学習に取り組む態度 探求課題に取り組む姿勢・提出物等				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
2 学期	第1部 生物の進化 第1章 生物の進化		（二学期中間考査以降） 生命の起源と生物進化の道筋について学び、生物進化がどのようにして起こるのかを理解する。 探究1 生物を構成する物質はどのようにして生じたのか 減数分裂による遺伝子の分配と受精により、遺伝的に多様な組み合わせをもつ子が生じることを理解するとともに、遺伝子の連鎖と組換えについても理解する。 探究2 親のもつ遺伝子の組み合わせは、どのように子に伝わるのか 進化がどのように裏づけられ、そのしくみがどのように説明されているかを学ぶ。 探究3 塩基配列が変化すると形質はどのように変化するだろうか						
	第2章 有性生殖と遺伝的多様性								
	第3章 進化のしくみ								
3 学期	第4章 生物の系統 第2部 生命現象と物質 第5章 生命と物質		生物の分類の方法、系統を明らかにする方法、現在明らかになっている生物の系統について学ぶ。 探究4 系統樹の作成 細胞小器官や細胞の働きとタンパク質の働きを理解する。 探究5 タンパク質はどのような性質をもっているだろうか 光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられ、呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されるしくみを理解する。 探究6 呼吸の過程でグルコースからどのようにATPが合成されるか 探究7 植物は光エネルギーをどのように利用し有機物を合成するか DNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ、そして遺伝子発現の調節を学ぶ。 探究8 タンパク質はどのようなしくみで合成され、遺伝子はどのようなときに発現しているのか						
	第6章 代謝								
	第3部 遺伝情報の発現と発生 第7章 遺伝現象と物質								
履修条件・注意事項等		理系選択科目であり、理学部生物学科や農学部、医療看護系大学進学を考えている者は履修が望ましい。1 学期～2 学期中間考査は「生物」の2 単位を使い、4 単位として「生物基礎」の授業を進める。2 学期中間考査以降は「生物基礎」の授業は「生物」を行う。 【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】 2 学年理系（生物選択者）							

教科	理科	科目	化学	単位数	2単位	学年	2年	履修対象	理系
教科書・副読本		『化学』（数研出版）、『セミナー化学基礎＋化学』（第一学習社）、『フォトサイエンス化学図録』（数研出版）							

履修条件・ 注意事項等	学校指定体操服・水着の着用 【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】 2学年全員
----------------	---

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1 単位	学年	2 年	履修対象	全員
教科書・副読本		新高等保健体育（大修館）、図説新高等保健							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 個人及び社会生活における健康・安全についての知識・技能を育成する。 思考力・判断力・表現力 合理的、計画的な解決に向けての思考力、判断力 目的や状況に応じて他者に伝える力 主体的に学習に取り組む態度 明るく豊かで活力ある生活を営む態度					知識・技能 定期テスト 思考力・判断力・表現力 授業ノート・探究活動 主体的に学習に取り組む態度 授業への取り組み、発表等を総合的に判断				
期間	単元			主な学習活動（指導内容）と評価のポイント					
1 学期	3 単元 生涯を通じる健康 1 思春期と健康 2 性意識の変化と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画 6 加齢と健康			・思春期における心身の発達や性的成熟、健康課題について理解する。 ・自分の行動への責任感や異性への理解と尊重、性情報への適切な対処について理解する。 ・健康生活と健康の関係について理解する。 ・受精から出産の過程と健康課題、活用できる保健サービスについて理解する。 ・家族計画の意義や避妊法、人工妊娠中絶について理解する。 ・加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。					
2 学期	7 高齢社会に対応した取り組み 8 働くことと健康 9 労働災害の防止 10 働く人の健康づくり 4 単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 健康被害を防ぐための環境対策 4 環境衛生にかかわる活動 5 食品の安全性と健康			・高齢社会における健康課題や社会の取り組みについて理解する。 ・働くことの意義と働き方の多様化や人々の健康課題について理解する。 ・労働災害の要因や防止するための様々な取り組みについて理解する。 ・職場での健康づくり活動や働く人の生活の質の向上の重要性を理解する。 ・大気汚染による健康への影響や地球規模での大気汚染について理解する。 ・水質汚濁、土壌汚染による健康への影響を理解する。 ・環境汚染による健康への影響や産業廃棄物の処理や新たな環境汚染について考える。 ・上下水道の整備とごみ処理について現状と今後の課題を考察する。 ・食品の安全性の重要性を理解する。					
3 学期	6 食品の安全性を確保する取り組み 7 保健制度とその活用 8 医療制度とその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 様々な保健活動や対策 11 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり			・食品の安全性を確保するための行政の働きや消費者の果たす役割について理解する。 ・保健行政の役割、保健サービスの適切な活用について理解する。 ・医療保険の仕組みや適切な活用方法について理解する。 ・医薬品の販売規制や使用法についての知識を理解する。 ・国際機関でのさまざまな保健活動について理解する。 ・健康の保持増進には環境づくりが重要であることを理解する。					

履修条件・ 注意事項等	予習復習を必ず行う。 課題を忘れずに行う。 授業に集中し、主体的に取り組む。 【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝４：４：２ 【評価母集団】２学年全員
----------------	---

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】2学年選択者（理系、文系、国際教養コース）
----------------	---

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2 単位	学年	2 年	履修対象	選択者
教科書・副読本		美術 I（光村図書）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 ・造形的な見方・考え方を深める。 ・様々な表現・技法・色彩について、理解を深め、習得する。					知識・技能 ワークシート				
思考力・判断力・表現力 ・発想や構想に関する資質・能力を育む。 ・発想し、構想した経験を鑑賞に活かす力を育む。					思考力・判断力・表現力 実技・作品				
主体的に学習に取り組む態度 ・表現や鑑賞について主体的に取り組む。 ・美術を愛好する心情や豊かな感性を育む。					主体的に学習に取り組む態度 提出物、授業態度				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	鑑賞「教科書」 平面表現「改造絵」		・教科書に一通り目を通すことで、絵画・彫刻・デザイン・映像、メディア表現について、知見を深める。 ・様々な美術作品を見ることによって、自分の美的好奇心について考える。 ・表現の意図や工夫について考え、発想力・アレンジ力を高める。 ・自分に合った表現方法を見つけていく。 ・アクリル絵具の特性、用具の使い方について理解を深め、習得する。 ・鑑賞・合評を通して、プレゼンテーション力を鍛える。自分や他者の良さ、個性について考える。						
2 学期	立体表現「教室の 1 コマ」 絵画表現「野外スケッチ」 映像表現「自己紹介 PV」		・立体造形における発想力・構成力を鍛える。 ・空間表現について考える。 ・粘土を使って、人物像の表情・動き・量感など学ぶ。 ・鑑賞・合評を通して、様々な造形的な良さ・美しさを学ぶ。 ・木や草などの自然物や、校舎などの人工物の描写方法を学ぶ。 ・様々な遠近法・透視図について学ぶ。 ・スケッチを通して、自分なりの視点を学び、観察力を深める。 また、じっくりと細部を観察することで、新しい気づき、新鮮な驚きを得、普段見落としがちな風、音、気配といった五感を高める。 ・鑑賞・合評を通して、様々な表現方法、発想力を学ぶ。 ・原案、脚本、演出、演技、編集といった、映像表現に関する一連の流れを学び、映像とは何かについて考える。 ・ iPad を使って、編集や効果音など特殊な技術について、個々の必要に応じて学ぶ。 ・映像におけるチームワークについて学ぶ。						
3 学期	造形表現「自分のコピー」 鑑賞		・外面のコピー、内面のコピー、様々な角度から自己探求し、自分の個性、他人の個性について改めて考える機会とする。 ・等身大の大作を制作することによって、様々な課題を見つけ、それを 1 つずつ解決する力を身に付ける。 ・造形表現、造形活動とはについて振り返り、考える契機とする。 ・1 年間に制作した作品を振り返ることで、「自分なりの表現」「アートとは何か」「何のために美術の授業はあるのか」「多様性」について考え、これからの社会の有り様、自分の将来について考える。						
履修条件・注意事項等		【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 4 ： 4 ： 2 【評価母集団】 2 学年選択者（理系、文系、国際教養コース）							

履修条件・ 注意事項等	物品購入が必要（参考：令和6年度（予定）1,940円） 【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝4：4：2 【評価母集団】2学年選択者（理系、文系、国際教養コース）
----------------	--

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	3単位	学年	2年	履修対象	全員
教科書・副読本		『FLEX ENGLISH COMMUNICATION Ⅱ』（増進堂） 『英単語 Stock4500』（文英堂）							
育成する資質・能力						評価の方法			
知識・技能 受け身の不定詞や複合関係代名詞など、本書で学習する文法に加えて、語彙や表現などの用法や意味を理解することができる。また、報告文や新聞記事などの多様な英文から情報を読み取り、整理しながら理解したり、自身の考えや意見を学習した語句や文を適切に活用して、発信したりすることができる。						知識・技能 定期考査			
思考力・判断力・表現力 日常的、社会的な話題の説明を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点を的確に捉えることができる。また、教科書で学習した内容について、自身の考えや意見を明確な理由や根拠とともに、詳しく伝えることができる。						思考力・判断力・表現力 定期考査 パフォーマンステスト グループワーク・発表・報告			
主体的に学習に取り組む態度 日常的、社会的な話題についての内容を理解しようとすることができる。また、学習した内容を相手に配慮しながら、主体的に伝えようとすることができる。理解した情報ややり取りをした内容について効果的な理由や根拠とともに、まとまりのある文章を書くことができる。						主体的に学習に取り組む態度 課題考査 英単語小テスト 提出物			
期間	単元	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント							
1学期	Lesson1	- 導入となる質問を与え、本レッスンのトピックに関心や興味を持たせる。 - 語句の意味および発音を定着させる。 「アニメ聖地巡礼」とは何なのかを理解させる。 - アニメ『らき☆すた』が聖地となった場所にどんな影響をもたらしたのかを読み取らせる。 「アニメ聖地巡礼者」が地域に引き起こす問題について読み取らせる。 - アニメと地域の結びつきがどのような影響をもたらすのか、また今後「アニメ聖地巡礼」に期待される効果とはどのようなものかを読み取らせる。 「受け身の不定詞」「受け身の進行形」の表現を理解させる。 - 自分のお気に入りの作品の聖地について情報を集めさせ、ペア同士で紹介させる。 - 速読しながら、True or Falseを解かせる。							
	Lesson2	- 導入となる質問を与え、本レッスンのトピックに関心や興味を持たせる。 - 語句の意味および発音を定着させる。 - 岩谷圭介氏が行うふうせん宇宙撮影とはどのようなものなのかを理解させる。 - 岩谷氏がふうせん宇宙撮影を始めたきっかけを読み取らせる。 - 岩谷氏のこれまでの実験内容について読み取らせる。 - 岩谷氏の夢を追求する姿勢と彼の若者へのメッセージを読み取らせる。 「助動詞＋完了形」「受け身の完了形」の表現を理解させる。 - 日本人が発明したものでプラスの効果をもたらしたと思うものとマイナスの効果をもたらしたと思うものを選び、ペアで話し合わせる。 - 速読しながら、True or Falseを解かせる。							
	Lesson3	- 導入となる質問を与え、本レッスンのトピックに関心や興味を持たせる。 - 語句の意味および発音を定着させる。 - 塩は私たちの生活においてどのような役割をしているか理解させる。 - 食料を保存するという塩の役割が歴史的にどのように扱われたかを読み取らせる。 - 塩に関することわざや宗教的な塩の役割について理解させる。 - 現代の生活における塩の役割の変化について読み取らせる。							

2 学 期	Lesson4	・「If節のない仮定法」「動名詞の意味上の主語」の表現を理解させる。 ・長年使用されているアイテムとその役割についてグループで話し合わせる。 ・速読しながら、True or Falseを解かせる。 ・導入となる質問を与え、本レッスンのトピックに関心や興味を持たせる。 ・語句の意味および発音を定着させる。 ・ウミガメのからだの特徴について理解させる。 ・ウミガメの移住と産卵について理解させる。 ・赤ちゃんウミガメや大人のウミガメが直面している問題について読み取らせる。 ・ウミガメを救うために私たちができることについて理解させる。 ・「as ifを用いた仮定法」「疑問詞+to do」の表現を理解させる。 ・製品に使用するために狩猟された動物の情報を調べさせ、その内容を表にまとめたり英文を書かせたりさせる。 ・速読しながら、True or Falseを解かせる。
	Lesson5	・導入となる質問を与え、本レッスンのトピックに関心や興味を持たせる。 ・語句の意味および発音を定着させる。 ・ヒューストン空港での待ち時間の事例について読み取らせる。 ・待ち時間の心理状態とそれを考慮した生活の中の工夫について読み取らせる。 ・待ち時間に対する期待が与える心理的影響について読み取らせる。 ・待ち時間に対する公平さについて読み取らせる。 ・「同格を導く接続詞that」「関係副詞の非制限用法」の表現を理解させる。 ・不快に感じる公共または商業サービスや校則についてペアで意見を共有させ、解決策を考えさせる。 ・速読しながら、True or Falseを解かせる。
	Lesson6	・導入となる質問を与え、本レッスンのトピックに関心や興味を持たせる。 ・語句の意味および発音を定着させる。 ・ヒューマンライブラリーとは何なのかを理解させる。 ・失読症を抱える人のエピソードを読み取らせる。 ・失業してホームレスになった人のエピソードを読み取らせる。 ・ヒューマンライブラリーから学ぶ共生社会で生きる上で必要なことについて読み取らせる。 ・「否定の分詞構文」「完了形の不定詞」を理解させる。 ・様々な立場の人々から自分が知りたい内容を一つ選んで調べさせ、説明させる。 ・速読しながら、True or Falseを解かせる。
	Lesson7	・導入となる質問を与え、本レッスンのトピックに関心や興味を持たせる。 ・語句の意味および発音を定着させる。 ・災害時の避難所の状況と坂茂氏が設計する建築とはどのようなものなのかを理解させる。 ・坂氏が被災者を助けるための建築を志したきっかけを読み取らせる。 ・坂氏がこれまでに被災地で行ってきた活動とその功績が称えられたことについて読み取らせる。 ・坂氏の今後のプロジェクトと若者へのメッセージを読み取らせる。 ・「部分否定」「If S' were to V'、S would V …」の表現を理解させる。 ・避難所の課題をペアで話し合わせ、自分で考えた改善策をペアで共有させたり発表させたりする。 ・速読しながら、True or Falseを解かせる。
	Lesson8	・導入となる質問を与え、本レッスンのトピックに関心や興味を持たせる。 ・語句の意味および発音を定着させる。 ・インフルエンザとかぜの違いについて理解させる。 ・バクテリアとウイルスのそれぞれのしくみについて理解させる。

		・エドワード・ジェンナーによるワクチン開発の歴史について読み取らせる。 ・感染症が広まった歴史と今後人類が感染症とどう向き合っていくかについて読み取らせる。 ・「付帯状況のwith」「受け身の分詞構文」の表現を理解させる。 ・感染症の過去のデータから読み取れる特徴をグループで話し合わせる。 ・どの感染症が最も感染力があるかを調べさせ、効率的な予防策をグループで話し合わせたり、インターネット上で感染症予防ポスターを調べさせ発表させたりする。 ・速読しながら、True or Falseを解かせる。
3 学 期	Lesson9	・導入となる質問を与え、本レッスンのトピックに関心や興味を持たせる。 ・語句の意味および発音を定着させる。 ・コンゴ共和国の実情とサプールとは何かを理解させる。 ・サプールの精神とは何なのか、またそれによって人生が変わった一人の若者の例を読み取らせる。 ・サプールの歴史とサプールが影響を与えた世界的デザイナーについて読み取らせる。 ・サプールの信念について読み取らせる。 ・「倒置」「完了形の分詞構文」の表現を理解させる。 ・各ファッションの背景にある歴史や社会情勢、哲学を理解させ、ファッションが社会とどう関連しているか話し合わせる。 ・興味のあるファッションについて調べさせ、説明させる。 ・速読しながら、True or Falseを解かせる。
	Lesson10	・導入となる質問を与え、本レッスンのトピックに関心や興味を持たせる。 ・語句の意味および発音を定着させる。 ・Googleを生み出したラリー・ページという人物について理解させる。 ・ラリー・ページがどのようにGoogleのアイディアを思いついたのかについて読み取らせる。 ・リーダー養成プログラムで学んだ夢の実現するためのスローガンと夢をもつことに対するラリー・ページの考えを読み取らせる。 ・Googleを設立するうえでの苦労とラリー・ページの夢を実現するためのアドバイスを読み取らせる。 ・「複合関係代名詞」「二重否定（肯定の意味を表す）」を理解させる。 ・ラリー・ページの経歴を整理させ、「不可能と思われることを良い意味で無視」するうえで重要だった場面をグループで話し合わせる。 ・自分自身の「不可能と思われることを良い意味で無視」することを考え、自分ができると達成したいことを挙げさせ、発表させる。 ・速読しながら、True or Falseを解かせる。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝3：4：3 【評価母集団1】2学年文系および理系 【評価母集団2】2学年国際教養コース
----------------	---

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	2単位	学年	2年	履修対象	全員
教科書・副読本		APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅱ（開隆堂） 英文法・語法Engage 3rd Edition							
育成する資質・能力			評価の方法						
知識・技能 各文法事項を理解し、適切に使うことができる。			知識・技能 小テスト・定期考査・課題考査 教科書のBasic Activity、Exercisesの問題を使って各文法事項の用法を理解し、適切に使うことができるかを評価する。						
思考力・判断力・表現力 各活動を通じて、場面に応じたやりとりができる。			思考力・判断力・表現力 定期考査、課題考査 発問に対する返答、発表 実技・課題・定期考査 教科書のMain Acitivityの学習を通して、パートナーとやりとりができるかどうかを評価する。						
主体的に学習に取り組む態度 各活動において、学習した内容を積極的に使おうとする。間違いを恐れずに発言したり、積極的に質問をしたりする。			主体的に学習に取り組む態度 授業態度、提出物、小テスト パフォーマンステスト 間違ふことを恐れずに、対話をしているか、うまく言えないことがあっても別の語句や表現を使って言い換えたりするなどして対話を継続しようとしているか、またあいづちを打ったり質問をするなどして、相手の話を関心を持って聞いているか、について観察して評価する。						
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	Lesson 1		・現在と過去を表す表現 現在形・過去形・進行形の用法を理解し、それらを使用して自分や周りの人について表現できる。						
	Lesson 2		・未来を表す表現 未来を表すさまざまな表現の用法を理解し、それらを使用してこれから起こることなどを表現できる。						
	Lesson 3		・助動詞 さまざまな助動詞の用法を理解し、それらを使用して人に頼みたいことなどを表現できる。						
	Lesson 4		・完了形 さまざまな完了形の用法を理解し、それらを使用して将来の予測などを表現できる。						
	Lesson 5		・受動態 さまざまな受動態の用法を理解し、それらを使用して、身の回りの物事について表現できる。						
2 学期	Lesson 6		・比較①（比較級、最上級） さまざまな比較級と最上級の用法を理解し、それらを使用して、データからわかることについて表現できる。						
	Lesson 7		・比較②（同等比較、倍数比較など） 同等比較や倍数比較などのさまざまな用法を理解し、それらを使用して、データからわかることについて表現できる。						
	Lesson 8		・動名詞 動名詞のさまざまな用法を理解し、それらを使用して、物事の特徴について表現できる。						
	Lesson 9		・to不定詞 to不定詞のさまざまな用法を理解し、それらを使用して、自分の提案を理由もつけて表現できる。						
	Lesson 10		・分詞 現在分詞と過去分詞のさまざまな用法を理解し、それらを使用し						

		て、身の回りの物事について、詳しく表現できる。
3 学 期	Lesson 11	・ 関係代名詞 関係代名詞のさまざまな用法を理解し、それらを使用して、人や身の回りのものについて、詳しく表現できる。
	Lesson 12	・ 関係副詞 関係副詞のさまざまな用法を理解し、それらを使用して、紹介したい場所や時などを詳しく表現できる。
	Lesson 13	・ 仮定法 仮定法のさまざまな用法を理解し、それらを使用して、願望や助言などを表現できる。
	Lesson 14	・ 特殊構文 無生物主語や強調構文を使った表現を理解し、それらを使用して条件や理由、強調したいことなどを表現できる。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝3：4：3 【評価母集団1】2学年文系および理系 【評価母集団2】2学年国際教養コース
----------------	---

履修条件・注意事項等	ALT と合同で授業を行い、フランス語でのコミュニケーション活動を行う。 【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 3 ： 4 ： 3 【評価母集団】 2 学年選択者（国際教養コース）
------------	--

履修条件・注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 3 ： 4 ： 3 【評価母集団】 2 学年選択者（国際教養コース）
------------	--

履修条件・注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 3：4：3 【評価母集団1】 2学年選択者（文系） 【評価母集団2】 2学年選択者（国際教養コース）
------------	---

教科	家庭	科目	ライフデザイン	単位数	2 単位	学年	2 年	履修対象	文系選択者
教科書・副読本		資料集これであなともひとり立ち 自立のためのワークブック（金融広報中央委員会）							
育成する資質・能力							評価の方法		
知識・技能 主体的に生活を営むために必要な技術を総合的に身に付け、情報を収集・整理し、検討することができる。自分らしく生きるために目標を持ち、生活課題に対応した意思決定を自分で行うことの大切さを理解している。							知識・技能 定期考査 製作物 提出物		
思考力・判断力・表現力 自分を見つめ、肯定的な自己概念をもち、自分の人生や進路について考えを深め、具体的にまとめている。社会の一員として、共生社会を実現するために何ができるか考え、工夫している。							思考力・判断力・表現力 探究活動 発表 定期考査		
主体的に学習に取り組む態度 ・学習内容に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ・自分や家族の生活に関心をもち、意欲的に日常生活の改善向上に努めようとしている。 ・体験実習や実験などに、積極的に取り組もうとしている。							主体的に学習に取り組む態度 授業への取り組み グループ活動 作品製作や実習レポートなどの取り組み		
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	家庭経済 1 収入と支出 2 社会保障制度 3 現代の消費行動 4 労働と生活時間		・家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。 ・インターネットでの売買など、現代の問題を考える。 ・職業労働・家事労働の意義について学ぶ。 ・資源・環境に配慮した生活スタイルについて考え、実行することができる。						
	社会福祉 1 共生について 2 ボランティア		・様々な状況の人が協力して生活する社会を理解し、自分には何ができるのかを考える。 ・定期考査・レポートと授業への取り組みによって評価する。						
2 学期	住生活 1 人と住まいの関り 2 住まいの計画 3 健康的な住まい環境		・住まいの機能・快適な室内環境についての要素を含めて理想の住居を計画することができるようになる。 ・家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。						
	衣生活 1 衣生活の管理 2 衣生活の資源環境		・洗濯やドライクリーニングについて学ぶ。 ・洗剤による水の環境汚染について考える。 ・フェアトレードについて考える。 ・定期考査・レポートと授業への取り組みによって評価する。						
3 学期	食生活 1 食事の計画と調理 2 これからの食生活を考える 3 調理実習		・バランスのとれた食事計画ができるようになる。 ・保存食や伝統的な食品を使った実習を考える。 ・実習を通して調理技術を向上させる。						
	保育 1 子どもの発達		・子どもの心身の発達と特徴について学習する。 ・定期考査・レポートと授業への取り組みによって評価する。						
履修条件・注意事項等		【観点別評価】 （知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝ 4：4：2 【評価母集団】 2 学年選択者（文系）							

教科	情報（専）	科目	情報デザイン	単位数	2単位	学年	2年	履修対象	文系選択者
教科書・副読本		『情報デザイン』（実教出版）、『IT・Literacy情報デザイン編』（日本文教出版）							
育成する資質・能力					評価の方法				
知識・技能 コンピュータによるデザインに関する基礎的な知識と技術を身につける。 思考力・判断力・表現力 情報の各分野に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、情報産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につける。 主体的に学習に取り組む態度 問題意識、美的判断力、情報活用能力、企画・計画力を身につけ、上質なデザインを創造し、応用する能力と態度を育てる。					知識・技能 小テスト 課題製作 思考力・判断力・表現力 グループワーク 課題製作 発表 主体的に学習に取り組む態度 授業への取り組み グループワーク 課題製作				
期間	単元		主な学習活動（指導内容）と評価のポイント						
1 学期	デザイン・情報・造形の基礎		- デザインが人間生活のさまざまな目的を達成するための合目的行為であることを理解する。 - アイデアとは目的を果たすための工夫であると認識し、目的意識を持って現状を観察し、問題点を分析するプロセスを経てアイデアを出し合い、グループワークを通して思考を活性化していくことを理解する。 - 有意義なデザインにするためには、見た目のよさだけにとらわれるのではなく、倫理観や社会的意識をもって、社会に及ぼす影響を考慮する姿勢が大切であることを理解する。 - 人間どうしのコミュニケーションのはじまりはシンボルを共有するところから発展していったことを理解する。 - 絵文字から表音文字、粘土板から紙、印刷技術による情報の伝達と共有が、人類に大きな力を与えていったことを理解する。 - 情報が溢れる時代のなかで、情報の受け手としては必要な情報を選択し、送り手としてはわかりやすく表現し伝えることが必要であることを理解する。 - コミュニケーションモデルを理解し、表現の文脈に込められたメッセージを読み解く姿勢、送り手と受け手の間でどのような体験を共有できるかに配慮する姿勢が大切であることを理解する。						
	デザインと表現		- 造形の基礎となる5つの要素（形態・色・材質感・空間・時間）を分析し、把握する。 - 基本形態（純粹形態）として点・線・面さらには立体・空間の造形的意味を理解する。 - 色と光の関係、光の三原色、色料の三原色、色の三属性を理解する。 - 材質感がさまざまな面で造形的効果にかかわることを理解する。 - 造形物が内包する空間だけでなく、造形物を取り巻く空間、造形物と見る者との間の空間もまたデザインする上で考慮すべき要素であることを理解する。 - 造形要素を時間的に変化させることで動きが表現され、そこからリズムなど時間的効果が生まれることを理解する。 - 眼に見える物体だけではなく、人々の行動や社会現象など意識しないと見えてこない事象も観察の対象であることを理解する。						
2 学期			- 造形物が内包する空間だけでなく、造形物を取り巻く空間、造形物と見る者との間の空間もまたデザインする上で考慮すべき要素であることを理解する。 - 造形要素を時間的に変化させることで動きが表現され、そこからリズムなど時間的効果が生まれることを理解する。 - 眼に見える物体だけではなく、人々の行動や社会現象など意識しないと見えてこない事象も観察の対象であることを理解する。						

3 学 期		・ 自然物や人工物など対象物の構造や特徴を把握し、簡潔に表現するプロセスを理解する。 ・ さまざまな表現技法を実験し、新たな表現方法を探る。 ・ 変化や違いを見せるにはグラフ、見つけやすくするには一覧表、というようにデータから読み取れる意味、伝えるべき意味を判断して、受け手が理解しやすい適切なスタイルで表現すべきであることを理解する。
	デザインの実際	・ 人々に行動を促す宣伝活動としてのプロモーション・デザインをとおして、デザインの重要性とその効果を理解する。
	情報デザイン演習	・ 情報をよりよく理解してもらうための工夫のひとつとしてのインフォメーション・デザインの意義を理解する。

履修条件・ 注意事項等	【観点別評価】（知識・技能）：（思考力・判断力・表現力）：（主体的に学習に取り組む態度）＝3：5：2 【評価母集団】2学年選択者（文系）
----------------	--